

はじめに

平成 25 年 12 月吉日
順天堂大学保健看護学部
学部長 稲 富 恵 子

「順天堂保健看護研究」第 2 巻が発刊の運びとなりましたことを大変嬉しく思います。新学部は平成 25 年度いよいよ完成年度を迎えました。これは 1 回生の学修が、カリキュラムの上で最上級の「保健看護の統合と発展」の段階に至ったことを意味します。即ち研究面につきましては看護研究の原理と方法を学び、各自の研究テーマに基づいて文献検索、研究計画までの過程を学習し、その研究経過を口頭で発表し、研究計画書を作成するところまで成長いたしました。その 1 回生が来る 3 月に卒業していくのです。看護専任の教員が全員分担して 4 年生全員の指導に当たりました。初めての卒業式が順天堂創立 175 周年記念の年度に重なり二重の喜びとなりました。卒業後は各人就職先で臨床研究に対してハードルなく研究的視点を持ちながら、仁の精神で心身を癒す看護を実践するでしょう。教育に関与・ご支援いただきました皆さまに深謝いたします。

一方、教員は研究に向けて限られた時間を工夫しております。身近なところで、臨床実習に関連する教育と研究の視点からの基礎研究が行われ、原著として投稿されております。その中で、常日頃先人が申しております「教えることは学ぶこと」であることを実習指導者が実感されています。これなどは古くて新しい発見なのでしょう。そのほか研究報告、総説ほか実践報告等がみられますが、科研費採択が平成 24 年度、25 年度に基盤研究 (C)、挑戦的萌芽研究、若手研究等計 13 件あり、研究成果は今後に期待できるとおもわれます。

順天堂創立 175 年を契機として、「順天堂医学」は 58 巻 6 号を最終として、本創刊号でご紹介いたしました明治 8 年 10 月から発行の『順天堂醫事雑誌』という名称に平成 24 年 (2013 年) 度から戻りましたことをご報告いたします。

順天堂看護学教育の歴史は 117 年と伝統がございますが、保健看護学部の看護学研究はその端についたばかりです。実践の科学であります看護学は、その教育と研究は臨床現場、地域社会を介してあり課題は十分にあります。若手の研究者は本学部の勧める共同研究から始めて、大きなプロジェクト研究に参加していただきたいと思います。ベテランの研究者は他大学あるいは他学部の方との連携を考えて研究をしていただきたいと思います。

「順天堂保健看護研究」が将来本学部の歴史を知る上で重要な役割を担うことになりまですので、教育に注ぎました情熱に加えて、研究推進を念願いたします。